

武家の美意識、ここに極まれり!

能面 白色尉
桃山時代(16世紀)



能面 童子
金時絵「極河内作/直彦(花押)」
江戸時代(17世紀)



能面 般若
焼印「児玉近江」
江戸時代(17世紀)



能面 瘦男
朱漆「靱負」
江戸時代(17世紀)



能面 擧
陰刻「側面符」
江戸時代(17世紀)



薄黄地露芝花入七宝紫菊
羊齒蝶火炎太鼓模様縫箔
江戸時代(18世紀)



紅地源氏香囀
枝垂桜模様唐織
江戸時代(18~19世紀)



薄茶地鱗三階松槌車模様厚板
江戸時代(18世紀)

約600年前、観阿弥、世阿弥父子によって大成された能楽は、武家の式楽とされ、重要な儀式の際に演じられる歌舞劇として隆盛しました。肥後熊本藩筆頭家老であり、八代城主として主家細川家を支えた松井家歴代も能楽を愛好し、「細川家の能と相即不離(密接で切り離せない)の存在として、桃山時代以降の日本の能の歴史の「支柱をなす」ものとして注目されています。松井家に伝来した能面は108面、能装束は300点余のほり、質量ともに全国屈指の作品群です。本展では、平成27年1月、東京国立能楽堂、松井家の能展に出品された至高の能面、能装束、楽器、謡本等、98件を展示します。これらを守り伝えてきた八代の地で大規模に公開する、はじめての展覧会です。

戦国時代を生き抜いた謡本

細川藤孝(幽斎)の三男幸隆(妙庵玄又、1571~1607)が愛蔵し、自ら校合した観世流謡本。松井家初代康之が忠興(三斎)から拝領したもので、三百年余の挿本としては最古に属する貴重書。

みよあけんげんあしひくごばんつづかうないほん
妙庵玄又手沢五番綴謡本 60冊
慶長2~5年(1597~1600)



扇に夕顔時絵太鼓胴
胴内に金泥鉦「紫調 金春惣右衛門 国惟(花押)」
江戸時代(18世紀)



うんすんかるた時絵大鼓胴
江戸時代(18~19世紀)



負柴桜蜘蛛栗葉時絵小鼓胴
江戸時代(18~19世紀)

【交通のご案内】

- JR** 鹿児島本線・肥薩おれんじ鉄道八代駅下車3km
九州新幹線新八代駅下車6km
- バス** 八代駅・新八代駅西口から「検察庁・法務局・市博物館前」
「北荒神町福祉センター前」「八代市役所前」いずれかのバス停下車
- 車** 八代ICから八代港線に入り、田中西町交差点を左折(南下)
松浜軒前交差点を右折すく ※大型バス4台、普通車40台駐車可



八代市立博物館未来の森ミュージアム

〒866-0863 熊本県八代市西松江城町12-35 TEL0965-34-5555 FAX0965-33-9200
博物館ホームページ <http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/>